

注意

前年度の入試情報となります。
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited

龍谷大学大学院
農学研究科

Graduate School of

Agriculture

2024



食農科学専攻

Department of Food and Agricultural Science

食と農による社会的イノベーション

食と農は近年大きな注目を集めています。人類の永続する幸福の中心になるのは食であり、それを支える食と農は身近で大切な学問分野になろうとしています。そこでは、理論を踏まえた実践が必要とされています。

社会の発展に伴い、食と農には社会との複雑な関わりが増加しました。現代は多くの分野にまたがる研究が待望されています。専門にとどまっては解決できない問題が増えてきているからです。

新しい時代の要求に対応するために、本大学院では、農学部4つの学科である生命科学科、農学科、食品栄養学科、食料農業システム学科を1つの専攻に再編した大学院組織を作り『食』と『農』を一体的にとらえた実践的な教育研究を進めます。「食と農による社会的イノベーション」が食農科学専攻の目指す研究・教育の地平です。



農学研究科	食農科学専攻	修士課程	(入学定員30名)
		博士後期課程	(入学定員5名)



- 「食」と「農」を一体的に捉えた学際的な教育・研究
- 専門分野の教育・研究に多彩な周辺学問領域の成果をプラス
- 実務経験と科学の融合
- 研究倫理、生命倫理、環境倫理、社会倫理に配慮した教育・研究

教育理念・目的

建学の精神に基づいて、高い倫理観と高度な専門知識、技能を併せ持ち、「食」と「農」に関わる諸問題の解決と持続可能社会の実現、地域社会の活性化に寄与し、「食」と「農」を対象とした学問研究の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

食農科学専攻が養成を目指す人材像

「食」と「農」の知を融合し、社会に求められる人材を養成

- 1 「本質を知り、未来志向で考え、倫理的な価値判断のできる」人材
- 2 「ローカル・グローバル双方の視点を有し、国内外の問題解決に貢献できる」人材
- 3 「食と農の地域的なつながりを土台とした地域再生・活性化に寄与できる」人材
- 4 「食と農に関わる学問の発展に貢献できる」人材
- 5 「高度専門職業人、研究者として備えるべき知識・スキルを有する」人材

修士課程

想定される進路

- 「食」や「農」に関わる開発研究や実践研究に従事する研究職
- 大学院博士後期課程進学、その他

主な進路先

農林水産省植物防疫所(国家公務員一般職)／日東ベスト(株)(総合職)／タナカ理研(株)(技術職)／(株)ミツカン(技術職)／(株)トーモク(技術職)／大塚食品(株)(開発・研究職)／(株)新日本科学(研究職)／(株)中神種苗店(技術者)／国立大学法人三重大学医学部病院(管理栄養士)／独立行政法人国立病院機構(管理栄養士)／学校法人龍谷大学(教員)／大学院博士後期課程進学／起業 など

教育・研究の特徴

Point 1 入学と同時に指導教員を選定します。教員1名あたりの指導大学院生数を少なくし、密な研究指導が実現できるようにします。

Point 2 多彩な講義科目の中から、大学院生各自が自身の関心・興味に合わせて、自身の研究に役立つ科目を組み合わせて履修します(履修科目の決定に際しては指導教員が丁寧にアドバイスします)。

Point 3 その際、大学院生に対し、各自の専門領域にとらわれるのではなく、異なる領域の科目も履修するようにアドバイスします。これにより、学際的な知識を修得することが可能になります。

カリキュラム

各自の研究に必要な知識・技能を円滑に修得するために、指導教員が履修するべき科目の組み合わせを履修モデルとして提示します。なお、学際的な学びを実現するために、専門分野とは異なる科目群の科目履修を指示する場合があります。

農業生産科学モデル

動植物の生命現象の解明に関する基礎科学的な研究、動植物が成長する力を最大限効率的に発揮させることを可能とするような新しい農業生産方法の開発に関わる研究、従来とは異なる特性を有する新品種の開発に関する研究、食料の生産、加工、廃棄という「食の循環」の各プロセスにおける微生物の機能とその活用に関する研究、等に取り組む。

〈専門分野例〉発酵学、生態学、遺伝学、農芸化学、作物学、土壌学等

地域社会農学モデル

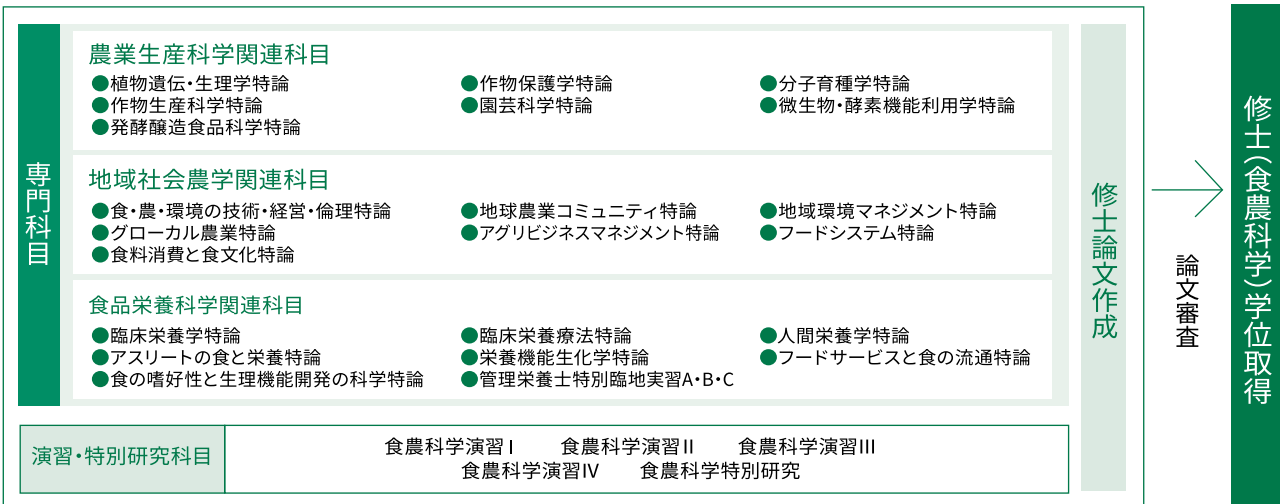
地域社会の再編成、地域経済の活性化を「農的社会的再構築」という観点から捉え、グローバル化が進むなかで、経済的に自立するだけではなく、自然環境の保全や地域文化・歴史の継承も含めた持続可能な地域発展(地域社会・地域農業づくり)を実現するための方策を「食」と「農」のつながりを意識しながら、わが国および世界レベルの双方で社会科学的に考究する。

〈専門分野例〉農業経営学、経営・経済農学、環境社会学、民族植物学等

食品栄養科学モデル

「食の嗜好性」や「食品の栄養」、「食品の安全性」を中心としつつ、「臨床の現場も含め、ヒトの全てのライフステージにおいてQOLを高める食事・食品の開発」「望ましい食品の開発に関わる経済性や経営マーケティング法」等を考究する。

〈専門分野例〉食品科学、臨床栄養学、公衆栄養学、調理学等



演習科目・特別研究科目担当教員一覧

※修士課程における主指導教員は、演習科目・特別研究科目担当教員一覧から選んでください。
 ※担当教員の専門分野は、P.5~6を参照してください。

科目名	選・必	単位	担当者 (50音順)											
食農科学演習Ⅰ	必修	2	朝見 祐也	浅水 恵理香	淡路 和則	石原 健吾	岩堀 英晶	上田 由喜子	ウエンダコン S.K.	岡崎 史子	尾形 凡生	尾崎 智子	落合 雪野	小野木 章雄
食農科学演習Ⅱ	必修	2	香川 文庸	金子 あき子	楠 隆	神戸 敏成	塩尻 かおり	島 純	嶋田 大作	鈴木 太朗	大門 弘幸	滝澤 理仁	竹歳 一紀	竹中 祥太郎
食農科学演習Ⅲ	必修	2	田邊 公一	玉井 鉄宗	土岐 精一	中川 千草	中川 雅嗣	中村 富予	永野 惇	西澤 果穂	樋口 博也	平山 喜彦	古本 強	別役 重之
食農科学演習Ⅳ	必修	2	梶田 哲哉	三浦 励一	三柴 啓一郎	宮本 賢一	森泉 美穂子	矢野 真友美	山口 道利	山崎 英恵	山崎 正幸	渡邊 洋之		
食農科学特別研究	必修	8												

博士後期課程

想定される進路

- 「食」や「農」に関わる新知見・理論・技術を探求する国際水準の研究職
- 「食」や「農」に関わる諸課題の高度先端的な解決方法を考究する国際水準の研究職

主な進路先

国立大学法人滋賀大学／
椋山女学園大学 など

働きながら修了した学生の勤務先

長谷川香料(株)／ハウス食品(株)／藤産業(有)／(株)木乃婦／京料理なかむら／国公立法人京都大学／
学校法人龍谷大学／学校法人至学館(至学館大学)／学校法人滝川学園(名古屋文理大学短期大学部) など

教育・研究の特徴

Point 1 入学と同時に指導教員を選定し、在学期間にわたって継続的な研究指導が受けられるようになります。

Point 2 博士後期課程においても講義科目(1科目、食農科学特別講義)の履修を義務付けします。同科目では「食」と「農」に関わる最先端の研究動向や未知の研究領域について紹介するだけでなく、研究理論についても教授します。

Point 3 演習科目では、高度専門的な研究指導を行うとともに、研究成果を国内外に向けて発信するためのスキルについても教授します。

博士後期課程の開講科目

※博士後期課程における主指導教員は、演習科目担当教員一覧から選んでください。
※担当教員の専門分野は、P.5～6を参照してください。

区分	科目名	選・必	単位	担当者					
講義科目	食農科学特別講義	必修	2	大門 弘幸	淡路 和則	楠 隆	土岐 精一		
演習科目	農業生産科学特別演習Ⅰ	選択	4	浅水 恵理香	岩堀 英晶	尾形 凡生	小野木 章雄	神戸 敏成	
	農業生産科学特別演習Ⅱ	選択	4	塩尻 かおり	島 純	大門 弘幸	滝澤 理仁	竹中 祥太郎	
	農業生産科学特別演習Ⅲ	選択	4	土岐 精一	永野 惇	樋口 博也	平山 喜彦	古本 強	
	食品栄養科学特別演習Ⅰ	選択	4	朝見 祐也	石原 健吾	上田 由喜子	岡崎 史子	楠 隆	
	食品栄養科学特別演習Ⅱ	選択	4	田邊 公一	中村 富予	榎田 哲哉	宮本 賢一	山崎 正幸	
	食品栄養科学特別演習Ⅲ	選択	4	山崎 英恵					
	地域社会農学特別演習Ⅰ	選択	4						
	地域社会農学特別演習Ⅱ	選択	4	淡路 和則	落合 雪野	香川 文庸	嶋田 大作	竹歳 一紀	
地域社会農学特別演習Ⅲ	選択	4	中川 千草	山口 道利	渡邊 洋之				

学費について

修士課程〈一般入試〉〈社会人入試(通常学費)〉

2024年4月入学学費等(予定)

	他大学出身者		本学部出身者		本学研究科の課程出身者	
	入学時納入金	1年次後期	入学時納入金	1年次後期	入学時納入金	1年次後期
入学金	200,000		150,000			
授業料	235,550	235,500	235,500	235,500	235,500	235,500
施設費	160,000	160,000	120,000	120,000	120,000	120,000
実験実習費	81,800	81,800	81,800	81,800	81,800	81,800
学生会入会費						
諸会費	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
院生会費	500	500	500	500	500	500
親和会入会金	3,000					
親和会費	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
校友会予納金	10,000					
合計	695,800	482,800	592,800	442,800	442,800	442,800

注 1. 諸会費は、農学会、院生会、親和会、校友会からの委託徴収金です。
2. 校友会費(30,000円)は他大学出身者のみ修士課程2年次に納入していただきます。
3. 社会人入試入学者は、入学手続期間中に次の単位制学費と同額の学費・諸会費を納入し、6月20日までに学費の差額を納入することになります。
※「長期履修制度」が適用され、入学時納入金が第1学期の学費より多くなる場合は、その差額を次学期以降の学費に充当します。

博士後期課程

2024年4月入学学費等(予定)

	他大学修士課程出身者		本学部出身者		本学研究科の課程出身者	
	入学時納入金	1年次後期	入学時納入金	1年次後期	入学時納入金	1年次後期
入学金	200,000		150,000			
授業料	235,550	235,500	235,500	235,500	235,500	235,500
施設費	160,000	160,000	120,000	120,000	120,000	120,000
実験実習費	81,800	81,800	81,800	81,800	81,800	81,800
学生会入会費						
諸会費	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
院生会費	500	500	500	500	500	500
親和会入会金	3,000					
親和会費	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
校友会予納金	10,000					
合計	695,800	482,800	592,800	442,800	442,800	442,800

注 1. 諸会費は、農学会、院生会、親和会、校友会からの委託徴収金です。
2. 校友会費(30,000円)は他大学出身者のみ修士課程3年次に納入していただきます。
※「長期履修制度」が適用され、入学時納入金が第1学期の学費より多くなる場合は、その差額を次学期以降の学費に充当します。

社会人の方へ 働きながら大学院で学ぶ支援「長期履修制度」

仕事と学修の両立をサポート、最大6年計画で大学院修了も可能。

長期履修制度の概要

職業を有している等の事情により、通常の修了に係る年限では履修が困難な学生を対象に、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することが出来る「長期履修制度」を設けています。
自分のペースで仕事と大学院の両立ができ、じっくり学ぶことができます。

対象者

長期履修学生となることを希望できるのは、次のいずれかに該当する方です。
① 職業を有している者
② 家事、介護、育児、出産等の諸事情を有する者
③ その他本研究科が相当な事情がある
と認めたと認めた者
(ただし、外国人留学生は対象としません。)

長期履修期間

修士課程、博士後期課程のいずれも上限6年です。ただし、休学期間はこれに算入しません。

優れた研究業績を上げた方へ「早期修了制度」

新たに博士後期課程で早期修了も可能に。

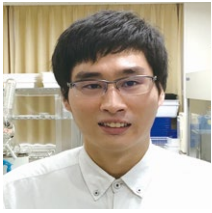
早期修了制度の概要

農学研究科博士後期課程に1年以上在学し、優れた研究業績を上げたと認められ、修了要件として定める単位を修得した大学院生の早期修了を認める制度です。

【博士後期課程】

通常	早期修了
1年次	1年次
2年次	修了
3年次	修了
修了	

在学生からのメッセージ



吉田 壮宏さん

修士課程
野菜園芸学研究室 2年生

本学農学研究科に進学したきっかけ

私が農学研究科に進学したのは、農業系の技術・研究職に就くことを目指していたからです。大学院では、学部より深い専門知識や技術を学ぶことができ、技術・研究職において必要なスキルを身につけることができると思い進学しました。また、自分のやりたいことができ、研究で分からないことがあっても相談しやすいと思い、内部進学を決めました。

取り組んでいる研究テーマとその内容(計画中を含む)

大学院では野菜園芸学研究室に所属しており、「トマトの果実重を制御する遺伝子の機能解明」についての研究をしています。トマトは生産量が野菜において第2位で、世界各地で生産、消費される重要な作物です。そのトマト生産において果実重は収量に直結する要素であり、トマトの果実重の制御機構を解明することは農業上非常に重要で、やりがいのある研究だと思いこの研究を始めました。

本学農学研究科に入学して、一番良かったと感じたことは何ですか

自身の成長を実感できたことです。研究では、少しでも油断するとデータが取れなくなってしまうので、日々の観察や管理が重要になります。水や気温の管理、病害虫の有無などを入学当初に比べより気を使えるようになり、栽培技術が身につけてきたと感じています。実際、学部の時よりも多くのトマトを栽培していますが、順調に育っていくトマトを見るととても嬉しくなります。



武 山林さん

博士後期課程
食料・農業・環境経済学研究室 1年生

本学農学研究科に進学したきっかけ

私は中国の内モンゴル出身で、農牧区で育つため、小さい頃から農業・畜産業に関心がありました。大学に入ってから農業経済学に興味を持って勉強していました。中国の農業だけでなく、先進国の農業をもっと理解するため留学しました。本学農学研究科に進学したきっかけは、本学では四つの基礎となる学科を一専攻に拡充した農学研究科食農科学専攻があり、ここで持続可能な農法の開発、環境保全、地域活性化など農村地域の発展に重要な意義を持つ知識を学ぶことができると思ったからです。

取り組んでいる研究テーマとその内容(計画中を含む)

私の研究テーマは「中国内モンゴル自治区における肉牛繁殖経営農家の技術効率性」。中国経済の急速な発展に伴い、人々の所得水準も大きく向上し、人々の栄養価の高い牛肉への需要も増えてきました。内モンゴルは中国の重要な牧畜生産基地であり、牧畜業はある地域、特に牧畜旗*の農牧民の主な収入源であります。従って、私の研究は肉牛繁殖経営農家に焦点を当て、肉牛繁殖経営農家の技術効率性を影響する要因を明らかにすることです。こうした研究により、技術効率性を改善することができれば、国内生産量の安定した成長を促す事ができると考えます。

本学農学研究科に入学して、一番良かったと感じたことは何ですか

古い歴史を持っている龍谷大学の美しい学習環境に恵まれ、自分の研究したい領域で指導教員からの丁寧な指導を受け、研究生活また留学生活では多くの先生方のお世話になっております。これらが人の心を温め、楽しんで今後の本学農学研究科での研究生活また留学生活が出来たのが一番良かったと感じました。

*「牧畜旗」とは、畜産業をこの地域の主な産業として発展させている内モンゴルの行政レベルで旗=県のこと。

修了生からのメッセージ



田中 陽さん

環境生理学研究室
修士課程2022年修了
ASAHI HONEY (起業) / (有) 瀬尾養蜂園

在学中に取り組んでいた研究テーマとその内容

セイヨウミツバチによる巣内に生じたカビの除去。セイヨウミツバチは人の手で管理しないと生きていくことができません。ミツバチが増えると巣板を足し、逆に減ってくると巣板を抜いたりします。足したり抜いたりする巣板は各養蜂家で保存方法は変わりますが、稀にカビが生えることがあります。カビの生えた巣をミツバチに預けると綺麗に掃除し生活圏として利用します。ミツバチはカビをどのように検知し、掃除するのかが解明する研究を行っていました。

本学農学研究科での学びは現在にどのように活かされていますか

今現在、養蜂家のもとで働いております。以前は、研究の実験に使用する為に、疑問を持ちながら飼育していましたが、養蜂家の飼育方法をみて正解、不正解が分かるようになってきました。そもそも生き物を飼うにあたって正解、不正解はありませんが、これまでやってきたことを今現在試しながら仕事に活かすことができていると思います。

本学農学研究科に進学を考えている人へのメッセージ

大学院進学というと、周りが就職活動を始めていることへの不安や、院進学をしても実験がそのまま上手くいくかわからないといった不安があると思います。そういった不安は一旦置いておいて、なんとなくでもやりたい事、研究したい事があるなら進学するべきだと思います。僕自身、進学を悩んだこともありますが、養蜂家として生きていく選択肢は進学したからこそできたのです。皆さんには、あの時進学しておけばよかったなど後悔のないようにしてもらえればと思います。迷ったらゴーです。僕でよければ相談いつでもありますよ！



藤田 静子さん

給食経営管理学研究室
博士後期課程2022年修了
至学館大学

在学中に取り組んでいた研究テーマとその内容

給食施設における管理栄養士・栄養士の業務内容は多岐にわたっていますが、中でも重要な業務のひとつに、「栄養・食事管理」があります。この業務を遂行する上で、特に困難な課題と言われている「食塩相当量の管理」と「高齢者のエネルギー確保」の2つに着目し、現状を調査するとともにその対応策として試作品の開発を試み、今後の方向性について提言を行いました。

本学農学研究科での学びは現在にどのように活かされていますか

私は長年管理栄養士として病院や福祉施設等での勤務経験があり、現在は管理栄養士養成施設大学の教員をしております。龍谷大学での研究を通して、今現在の現場の管理栄養士・栄養士の問題を把握でき、それを授業に活かすことができていると思います。また、統計解析法や官能評価手法、そして、より学術的な論文構成方法など、龍谷大学で得た専門性が現在の仕事に大いに役立っています。

受講して印象に残った授業を教えてください

博士後期課程での講義では、未知の領域である農学について講義があり、とても新鮮でグローバルな知識を得ることができました。また、他分野の学生とのディスカッションがとても有意義で楽しい時間でした。仕事をしながらの通学においては、長期履修制度も活用できますし、何より、指導して下さる先生方がとても熱心で的確なアドバイスをして下さいます。ぜひ、自分の可能性を広げてみてください。

教員紹介

※2023年4月現在

錯覚とからくりによって健康になれるのでしょうか？

上田 由喜子 教授 **M D**
(健康行動科学研究室)
生活科学、健康・スポーツ科学



「かおり」が繋げる関係

塩尻 かおり 教授 **M D**
(化学生態学研究室)
生態学、昆虫と植物相互作用



データサイエンスを駆使して環境に優しい発展を探る

中川 雅嗣 教授 **M**
(食・農資源経済学研究室)
食料・農業経済学、農業政策論、計量経済学



バイオテクノロジーを品種改良に役立てる

三柴 啓一郎 教授 **M D**
(植物育種学研究室)
遺伝育種科学、
応用分子細胞生物学、園芸科学



管理栄養士の立場から食物アレルギーを攻略する

岡崎 史子 准教授 **M D**
(栄養教育学研究室)
栄養教育論、食物アレルギーに関する研究、モノクローナル抗体の作製と応用



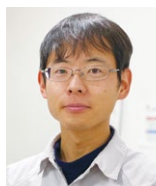
フードシステムにどう接近するか

山口 道利 准教授 **M D**
(フードシステム学研究室)
経営・経済農学、フードシステム論、
獣医経済疫学



受粉しなくても果実を形成する単為結果の謎に迫る

滝澤 理仁 講師 **M D**
(野菜園芸学研究室)
生物系・農学・生産環境農学・
園芸科学



給食施設のおいしくて安全・安心な食事の提供のために

朝見 祐也 教授 **M D**
(給食経営管理学研究室)
給食経営管理論、調理科学



植物生理に基づく果樹の栽培技術開発

尾形 凡生 教授 **M D**
(果樹園芸学研究室)
果樹園芸学



微生物の力で人も環境も健康に！

島 純 教授 **M D**
(微生物科学研究室)
農芸化学、応用微生物学



便秘を改善する上手な野菜のとり方

中村 富予 教授 **M D**
(公衆栄養学研究室)
公衆栄養学



老化を遅延させる食事

宮本 賢一 教授 **M D**
(病態栄養学研究室)
病態栄養学、腎臓内科学、
基礎栄養学



データから知恵を引き出す

小野木 章雄 准教授 **M D**
(生命データ科学研究室)
遺伝育種科学、統計科学



人と生き物のかかわりを考える

渡邊 洋之 准教授 **M D**
(環境史・環境社会学研究室)
環境史、環境社会学



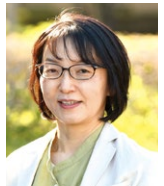
変わりものコムギを品種改良に利用する

竹中 祥太郎 講師 **M D**
(植物遺伝学研究室)
遺伝育種科学



植物寄生性線虫のエコゲノミクス

浅水 恵理香 教授 **M D**
(植物線虫学研究室)
植物保護科学、遺伝育種科学



食べものと着るものをめぐる人と植物のかかわり

落合 雪野 教授 **M D**
(食文化・地域文化研究室)
民族植物学、東南アジア研究



農作物の個体の姿とともに、群落としての生き様を探る

大門 弘幸 教授 **M D**
(作物学研究室)
作物生産科学、作物生態生理学



野外における生物の振る舞いを理解し、予測し、制御する

永野 惇 教授 **M D**
(情報生物学研究室)
植物分子生物学、情報生物学



地力とは何か

森泉 美穂子 教授 **M D**
(土壌学研究室)
土壌学



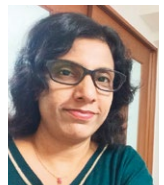
農業・農村の多面的機能と地域の持続可能な発展

嶋田 大作 准教授 **M D**
(地域農業・環境経済学研究室)
環境経済・政策学、地域農業経済学、
自然資源管理、commons研究



青果物の香気生成機構と品質向上

ウェンダ・コーン S.K. 講師 **M**
(収穫後生理学研究室)
収穫後生理学



作物栽培のウソ？ホント？

玉井 鉄宗 講師 **M**
(植物栄養学研究室)
土壌・植物栄養学



農業経営の
行動原理を解明する

淡路 和則 教授 **M D**
(食農ビジネス研究室)

農業経営学、農業組織論、農業
職業教育、バイオマス利用



ゆりかごから墓場までの
スポーツ栄養学

石原 健吾 教授 **M D**
(運動栄養学研究室)

スポーツ栄養学、運動生理学、
栄養生理学



小さな線虫が引き起こす
大きな農業被害

岩堀 英晶 教授 **M D**
(応用線虫学研究室)

線虫生態学、植物保護科学、
抵抗性育種学



日本の農業の担い手は誰？

香川 文庸 教授 **M D**
(農企業経営情報会計学研究室)

農業経営学、農業会計学、
経済統計学



食を通じて次世代を担う
子どもの健全な発育を目指す

楠 隆 教授 **M D**
(小児保健栄養学研究室)

小児科学、アレルギー、
疫学・予防医学



植物資源に支えられる
私たちの生活

神戸 敏成 教授 **M D**
(花卉園芸学研究室)

園芸科学・植物資源学



農山村の持続可能な発展を
どう図るか

竹歳 一紀 教授 **M D**
(食料・農業・環境経済学研究室)

農業経済学、経済発展論、
環境政策論



安全な「食」のための
微生物研究

田邊 公一 教授 **M D**
(応用微生物学研究室)

分子生物学、微生物学



デザイン通りの品種改良を
目指して

土岐 精一 教授 **M D**
(植物ゲノム工学研究室)

植物ゲノム工学



不思議な生態に満ちあふれた
昆虫の世界

樋口 博也 教授 **M D**
(応用昆虫学研究室)

昆虫生態学、害虫管理学



植物が「揺れる」環境に
応答する仕組みを解明したい

古本 強 教授 **M D**
(環境生理学研究室)

植物生理学、生化学



構造(形)から味の本質に
迫る

榎田 哲哉 教授 **M D**
(食品化学研究室)

食品科学、構造生物化学



食品や飲料で気分は変わる

山崎 英恵 教授 **M D**
(食品生理学研究室)

食品科学、栄養化学



タンパク質のかたちから
紐解く生命の謎

山崎 正幸 教授 **M D**
(応用生化学研究室)

構造生物学、タンパク質の X 線
結晶構造解析



病院や施設で
お坊さんが働いている？

打本 弘祐 准教授 **M**
(真宗学研究室)

仏教学(親鸞思想)、社会学



現場から知る
自然環境とのつき合い方

中川 千草 准教授 **M D**
(地域マネジメント・資源保全研究室)

環境社会学、地域研究



視覚でとらえる植物の免疫

別役 重之 准教授 **M D**
(多細胞免疫動態研究室)

植物保護科学、植物分子・生理科学、
植物免疫学、微生物生態学



足元に目をこらして
広がった視界

三浦 励一 准教授 **M**
(雑草学研究室)

雑草学、人と植物の関係史



日本人の生活は 100 年間で
どう変わってきたか

尾崎 智子 講師 **M**
(日本の食文化研究室)

省都衣服の生活文化史



世界の市場で日本の食を
いかに売るのか

金子 あき子 講師 **M**
(フードビジネス研究室)

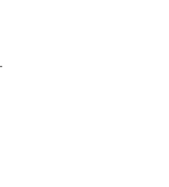
経営・経済農学



食農・健康科学×データサイエンス

鈴木 太郎 講師 **M**
(データ数理研究室)

バイオインフォマティクス、
公衆衛生学



新たな食素材を発掘する

西澤 果穂 講師 **M**
(食素材利用学研究室)

食品科学



植物の病気を防いで
農業生産に貢献する

平山 喜彦 講師 **M D**
(植物病理学研究室)

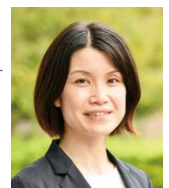
植物病理学、植物保護科学



予防と治療を支える
栄養管理を目指して

矢野 真友美 講師 **M**
(臨床栄養学研究室)

臨床栄養学



龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学大学院 農学研究科

新たな知と価値を創造するために、
「心・知・行動」の拠点として、地域や世界の課題に対峙し、
問い続ける。それが、龍谷大学の研究のあり方です。

これまでの社会のありようや私たちの行動を省み、
先端的な研究や学際的連携による知の集約のもと、
世界の人々と協力して困難な課題に立ち向かう。
その姿勢と行動が、未来の可能性を切り拓いていきます。

瀬田キャンパス 〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
Tel 077-599-5601 agr@ad.ryukoku.ac.jp



農学研究科のHPはコチラから

<https://www.agr.ryukoku.ac.jp/graduate>

■ 入試について

「2024年度入学試験要項」をご確認ください。
また、入試結果については入試情報サイトに掲載しております。
<https://www.ryukoku.ac.jp/admission/index.php>

■ 学費・諸会費について

2024年度学費・諸会費については、「2024年度入学試験要項」をご参照ください。